



俳諧新五百



秋目錄

柳	秋	立	七	益	施	撰	花	秋
散	風	秋	夕	市	餓	待	火	初
木	稻	初	星	益	鬼	生	相	秋
樵	妻	秋	合	月	墓	身	撲	今
萩	霧	朝	夕	迎	參	寬	御	朝
		秋	雨	火	燈	踊	射	秋
朝	露	文		迎	筆		山	月
顏		月	貸	鐘	高	衝	祭	天
		天	小	魂	燈	突	送	川
秋	桐	川	袖	祭	筆	入	火	
海	葉		盆		送	扇	祭	
棠					火			

野宮別	舛市	九月	新余	鷓鴣	雁	藥堀	秋野	穗芦	葛
秋雨	十三夜	重陽	新酒	乙鳥歸	鴨	木賊刈	蕎麥花	刈萱	葛紅葉
露時雨	後月	菊酒		渡鳥	鶉	鹿	蓼花	雞頭	初紅葉
秋時雨	名殘月	後雛		鶴	啄木鳥	鹿笛	烏丸	紫苑	芙蓉
露霜	御還宮	十日菊		蛇入穴	稻雀	初雁	木綿摘	花野	木犀

暮秋	松露	栗	梅嫌	秋霜
九月	落水	椎	未枯	紅葉
	崩築	茱萸	柚	柿紅葉
	網代打	通竹實	梨子	草紅葉
	行秋	茵	木實	菊

鳥	寒	冰	吹	報	吹	霜	杜	鯨	鷓
叫	梅	柱	雪	恩	草	月	蛭	河	鷓
鷹	冬	凍	志	講	祭	冬	網	代	冬
落	椿		卷	<small>芝居 顏見世</small>	燒	至	代	守	雀
州									
鷹	鷹	雪	霰	雪	空	髮	柴	饅	冬
力	車	車			也	置	漬	汁	雁
州					忌				
	鷹	猿	霽	雪	鉢	神	夜	杜	冬
	狩		見	見	敲	樂	與	父	鳥
							引	臭	
	煖	冬	冰	夜	寒	子		生	冬
	鳥	梅		雪	念	祭		海	蠅
					佛			流	

師	入	年	煤	年	行	大
走	寒	內	掃	用	年	晦
川	寒	立	掃	意	年	日
心	雨	春	餅	年	岡	年
冬			春	忘	見	夜
臘	寒	於	春	古	年	除
八	月	賣	配	曆	籠	夜
佛	藥	節	年	春	歲	
名	吟	季	市	待	暮	
事	乾	候	年	來	大	
始	鮭	等	本	春	年	

目錄

目錄

俳諧新五百題卷之三

田喜葵護物輯

○秋之部

立秋

馬買の小笑ふ秋の川日く
陰桶のくまハ里秋とふアユリ

百雄

秋の川や火をくつ門の秋を

土卯

くふの秋まや稲葉のけしの家

申糸

秋まてあまをさるく茶いり

三顧

初秋

初秋よくくくく燥のふく
くく秋の漢志くくく小菰の取

寄菴

可都里

今朝秋

くらひはききいんの木さの仲々
 初めは菰をて通るるのうへ
 うつ秋や指し濡るる唐のうへ
 鮎の草よるをさむむやらの秋
 松うけやうりあふはさの好
 水さうく鮎りけもささの好
 ささ林さぬんく佳し白の花
 樹鷹のささくやと好の秋
 草の中ふ蓮ふく候て又月さ
 又月いあふをさぬ名をさす

文月

天川

ふら月や母の白髪のうらうら
 又月の小舟あつしおあるる
 又月もさあつ町の若供さ
 一の川田今のをさうほくさ
 用もさし舟業出はわたの川
 政ちうくあまをさつし天の川
 虹のわたりの川さそ来よは
 ささくさあさううやらの川
 ささやさうほのむものいさ
 系あふの父母さきし七日の夜

下

下

葛三 叙来 丹霞 存義 李川 友國 東李 護物 牛心
 瑞馬 菊塙 護物 乙因 弓旗 乙彦 樂水 樽白 鶴里 篤亮

星合

七夕や花かひ免く川むらひ
 茶靜
 星のくハ風のまふ赤うにりの
 乙二
 星合やましく出てくるは影の人
 圭
 影をくまけりや星よ麻くら結
 一愠
 川鱈も星まら魚、若のくへ
 南丹
 けい合や赤子控し鞠くらは
 菊嶋
 七夕雨
 かのめ尻もかつし星のる
 雪八
 星のなご書のあるや赤ぬき
 而男
 けいのる舟流しとあしり取
 何丸
 星をかしてせれはの程、あ
 宗雨

七夕雨

貸小袖

盆

とくくや梅干ききかしの袖
 崇兆
 障子のせきをぬき人貸小袖
 訓山
 人くつて巻よハソコを盆ふり取
 春鴻
 月あそびニむさしりく盆あふき
 土朗
 草のくま油くけりや盆の膏
 詠帰
 けい合やくくと伸て盆ふり
 洞
 盆市
 盆のあもきくちや盆用を
 今長
 草市やけい合もあつては
 采子
 盆のくま油くけりや盆の膏
 雪雄
 盆のあもきくちや盆用を
 下
 盆のくま油くけりや盆の膏
 盆のあもきくちや盆用を

盆市

盆月

盆の月入の中云つはほく
筆くくの時の家くく盆の月
大星の影もくゆや盆の月
昔父入まはるはかー盆の月
近火や歩短へひけく月もる
ひつしや素くらえてくぬ家
近火や樹もあく物のほまつ
ひくし火や山根もさる草のぬく
近火もちらくく入や障の色
月よりくくくくくくくくく

澧水
みち彦
時喜雨
石芝
鳥所
玄彦
棹歌
真良
秋耳
双湖

迎火

迎鐘

魂祭

施餓鬼

山い海よりてハおくれくひ待
あくくそハ詠あく蘇よ近う候
鬼柳やくの世り果も葉の露
あまあまのあまあ蒼む女郎花
鬼柳の柳もまはるる夜明り
陰き盆よ侍もくくく鬼まのこ
瓶算も子供もくくくや線糸
施餓鬼柳秋の志くあまのやうあ
七夕のそりあまきあ施餓鬼
菓子の蟬施餓鬼の飯もあまの

成之
護物
士朗
真暁
季道
松夫
琴子
宗居
みち彦
鷗里

生身竟

翌志くぬり入故りぬ生身竟
勝る勢の汝もそれう生身魂
手車のうひの月や生身竟
おとく火のかく可越たもく
井くれう踊りの中を通く
呼合てもゆる踊りうれう
周ちかきやうか世界や盆舟を
井く子の日もいそや海一舟
ほく入やまか疾くく盆
ほく入やまか疾くく盆

まけり
文貫
護物
蕪村
暹素
無一
^江川
存義
冷氷

踊

衝突入

捨扇

花火

角力

一杯の葉もかめく扇かく
扇を彩やとく不纏の音
指ふ折糸の伝と扇や捨扇
月ヶけや扇ウとく草の宿
中くくつ果は花はく
雨雪のまはく浦田の急はく
後よの、花ももか仕舞い
これまていろとる世も花も売
水もくまや急火の下く
く付とあか肩く角力

乙二
光浪
菊後
一雨
玉珂
義香
兔水
雨屯
菊塙
花陶

下

御射山祭

かき傍のねもろ名をあき罪あ撲
 枝々罪々白髪よあうまきひん
 うき里のよちをを云あや角力くる
 笑をもつもの御一さや角力丸
 赤射山やまの六芒うき里
 神いそもの一むくんぬ後を作
 子も親もあはれよとをて後あは
 とくもそよのあはれをて清きく
 山挽子の花をえ射一妙早き
 蜀黍のむつしけあは妙早き

残暑

初嵐

草稗の田もよく秋の妙暑う水
 照かき日のあはれをて初嵐
 門松のほろもろつあつと何嵐
 かき秋の利きやも初あき
 ちつ嵐いそもの小貝も口くう
 けちめもろくねも白一初暑
 親もろぬ船の嵐よあまの冬
 秋もろねけしを賣のくか所
 先書あはれやきやねのうせ
 枝丸やあきをて筆のさや

秋風

挂枝
 五陵
 素撰
 曲阿
 闌更
 車蓋
 石芝
 冬夏
 葛三
 寝多松
 護物
 嘯山
 今彦
 涼濤
 奇石
 妙扇
 乙二
 二秀
 大常
 梅間

稲妻

あぢ丸や小家の多き里をふく
稲つまや一村移り宵の
いさ妻ふあとの中北むく
稲妻やうくくくく六袖うゆる
いふはまハ芦やのかのちくく
稲妻やあまよてくく舟の
新方の園をへんす車
侍きくくくくあつと
きのもややさくくくく
舟曳の肩よりくくく

杜口
普記
真効
桑山
旧友
さち雄
士朝
中助
玉珂
松蘿

霧

朝霧や馬の嘯る音はうも

ちうき

露

秋の白ハ似く秋多し草の露
初霧やぶくくくゆる寺の
露は足るものやさくく
ふきくふ替火もあや露の
あつあつのくくくくく
あつあつぬ人よあつん相一葉
あつあつあつあつあつあつ
あつあつあつあつあつあつ
あつあつあつあつあつあつ
草靴くくくくく相の一葉

六車
五葉
川二
五繩
麻彦
月居
平山
岱松
アト克

桐一葉

下

柳敬

柳一葉もそ守くおと人う似し
厚鴨の足らみししちし柳
黄昏ぬ當らうそそち依柳
そよぬそそちしし柳散りし
るる人ちしし通るししち依柳
柳ちしぬおのさし江の日もすし
日ハ花の中ししそる木様し
さし火そるちしあししし木様
ししちて吹ぬおるの夕木様
折ししち後ハ無ししし木様

風谷 蘭 東一 甘行 玉珂 ちしき 五明 宜啓 巨永 呂律

木槿

萩

おしそて花のさよ白木槿
夜の香ちしししし門の萩
浪はちし萩やししし秋をそし
そよそぬちし香のししそそし
静きそ余しそちしし萩のそ
そそそぬちしそぬそそそし水
朝の白やそ利の門はそしし
朝白しし翌のそしし縮しし
おしそぬ吹ししそぬそそそ
おしそそよく吹おしししし

さし雄 遅月 簾雪 日陽 里外 美山 瘦菊 雞周 五蓬 蓬柳

朝顔

秋海棠

あきふゆやしほけぬ牛の角
秋海棠その葉はらた片替し
秋海棠茎より花は赤より
母舌 罌子桐 海棠を深見と
片よりぬきをきき 秋海棠
むらや 秋海棠のさく日と
けき木ハ赤よりけや 女郎花
伸るそとやうらけひぬめら
夕うけらうけのけのけ
草に卧るそハ尺まのそ

巨洲 鳥酔 五明 春鴻 嵐庭 為任 斗山 茶静 双湖 而男

女郎花

薄

子もく 咲むよハけし
世を色よりけや花のけ
遠くけのすけや 花のハ九月
あけのそとよえとけとけ
かのそと夕けのそと
人ハ貧風をきくけのそと
夕うけの家ハ屋をよけ
ちりまてハえとけとけ
尾をらそとやきとけ
て中よりけとけ

護物 菊所 我竟 菊成 百雨 五貢 祐昌 屋鳥 草臺 茶静

尾花

萩

夕るのききふてぬ 屏花りふ
粥の香の萩くくむき 富居くを
飯持ぬ下系とくむむ 風の萩
萩のくすて 五本花 月夜くぬ
みく 家の中は 五く、萩のたう
草とむくく 萩のくく 八く 萩
月夜く先く 萩の 白く 萩
葉白く 萩のくすく 萩の 玉
石菖く 萩のくすく 萩の 玉
萩のくすく 萩のくすく 萩の 玉

倫市 馬印 成美 菊也 麻直 杉長 士朗 乙二 茶靜 芳居

蘭

藤袴

葉のくすく 萩のくすく 萩の 玉
萩のくすく 萩のくすく 萩の 玉
萩のくすく 萩のくすく 萩の 玉
萩のくすく 萩のくすく 萩の 玉
萩のくすく 萩のくすく 萩の 玉
萩のくすく 萩のくすく 萩の 玉
萩のくすく 萩のくすく 萩の 玉
萩のくすく 萩のくすく 萩の 玉
萩のくすく 萩のくすく 萩の 玉
萩のくすく 萩のくすく 萩の 玉

草夫 菓兆 葛三 巨屏 一月 蕪村 牛舌 首三 護物 春嶋

桔梗

嵐尾州

古世くすく 萩のくすく 萩の 玉
古世くすく 萩のくすく 萩の 玉
古世くすく 萩のくすく 萩の 玉
古世くすく 萩のくすく 萩の 玉
古世くすく 萩のくすく 萩の 玉
古世くすく 萩のくすく 萩の 玉
古世くすく 萩のくすく 萩の 玉
古世くすく 萩のくすく 萩の 玉
古世くすく 萩のくすく 萩の 玉
古世くすく 萩のくすく 萩の 玉

春嶋 護物 首三 蕪村 牛舌 一月 巨屏 菓兆 草夫

葛花

嵐屋まやまを撰する 竈の口
介とまきわらうの比人々 露のつた
こまはまゝ 嘆と水鶴もあをよ
崩岸竹や比もほくぬ 水の瘦
破るまをらんもの ないものこま
芭蕉葉よのまをまきく 朝のつら
次とくく夕らうのま 芭蕉のけ
大やうの枝よ 芭蕉のけけけけ
昔天のまをまきく 芭蕉のま
うせいのけ 芭蕉のまきく おもてあ

宇橋 夢南 文貫 双湖 博良 烏復 晋和 龍文 龜山 且

真首

雨をよよとく比や 首の花をくろ
ふくくまのまの倒色く 首の花
よき日山も 兼てまきく 首のま
首の葉の恨ら 白かす 細るま
首のまをまきく ぬ枝の 魚の心
首の葉よふくま 出くく 鯉の売
らんらん 夕らま ぼくく 古首のま
大粒のまをまきく ぬれま ぬれま
昔亦ぬ ぬれま ぬれま ぬれま
谷のまのまをまきく ぬれま ぬれま

竹馬 曉河 古玄 燕村 全彦 さら雄 八朗 杜影 圃亭 米室

吾亦紅

下

三

露草

魚子さへ死なせり川に流るれり
夕夕もも水鏡にやあかや音亦取
雲霧くさやけ後もなきさめのこ
はゆまの葉を消しう夜のそ
そ霧まの毛髪に横らぬ櫃の所を
あふ草は物夕夕けのふは遠
あふ草のそあは遠きくく秋日そ
川くさやけやあふくさのそは
あふと免てくさくさ菊も白ひく
さけはももてあふ植一せ菊も

ち度
杜英
保吉
關更
扇賀
羨山
ち友
み友
掉歌
蓋風

野菊

蔓珠沙花

粟科ユ咲まゝもあつて菊も
あふく咲りよはまゝもあつて
はん志ゆきふれよあつて
泡のそはつてまゝもあつて
山依り山の遠くは蔓珠沙花
秋のそは人あつてあつて
色あつてはつてあつて
益部あつてはつてあつて
茶の戸よりのあつてあつて
あつてあつてあつてあつて

雀角
乙二
玉光
宇橋
首三
微席
濂川
茶静
子代

秋草

西 凡

赤坂きんくろくま 多々所汁
赤いくろくろくま 味よる所汁
百うちふ地産出まゝるる所汁
用うまゝ西凡をまやす縄くま
鞍毒の西凡をくろくま
くろくま煎斗かろくま西凡
くろくま月子くろくま西凡の切珍
葉生善やまゝるるくろくま酒のくろくま
葉生善や鞍毒をくろくまの喉に
葉生善や鞍毒をくろくまの喉に

三つ唐
双湖
雉啄
今三唐
足三唐
夢南
如山
白雄
一蕙
可磨

葉生善

紫 蕨

小くろくまくろくま 白や紫蕨畑
まやくろくま地を這ふるや志まの花
乙まくろくまくろくまや志まの
くろくまくろくまの畑くろくま志ま畑
まの畑の紫まを志まの
くろくまの畑のくろくま角辛子
餉くろくま志まくろくまや角辛子
盆を持てくろくま唐くろくま
くろくま志まの畑くろくま唐
唐くろくまくろくまくろくま唐

宗 讚
養老
何九
杜英
文貫
撰川
蕪村
貯江
壺山
茶 靜

唐 椒

唐くろくま

茶 靜

鳩吹

少伏の鳩以ふふ入りけり

嘯山

鳩吹そくねを結る挿ちり

春鴻

推撰子鳩以くるあしり

竹吾

旅伴よりねをむしり鳩よく日

凡二

簪打ぬえしりあしり

護物

簪打ぬえしりあしり

掉歌

簪打ぬえしりあしり

如翠

簪打ぬえしりあしり

一肖

簪打ぬえしりあしり

真文

簪打ぬえしりあしり

蘭窩

虫

草の戸や白も藍もむしり

万九

虫なくや田を望み山のふけ

周居

虫なくや田を望み山のふけ

ト丸

虫なくや田を望み山のふけ

不騫

蓬生のいされさすけや

薙月

そんねふふかそもよき

月蕉

夫てくす奈も昔のうけり

桂丸

梅の軽乃今知々の夫てくす

曉河

草の若く松虫をすけく人の

宗讚

ま川をやぬふふあはさの虫

菓兆

蚕

松虫

秋 蟬

朝やろえすくまての蚊の聲
はくくや菊冠の月
松のせし清は、秋のくさくさ
千重のやもあはれか
蟬のせし聲をくさくさ口けは
まみくさくあはれ
糸籠の低さくゆきやのぼ
地へ落ちて這人まきん杖の聲
用ハきぬおひさぬよ杖のこ
かゝるもあはれさく杖の聲

木海
輪之
青蘿
一
東一
楚挺
了る女
雁路
青樹
李翠

秋 蝶

海切のさあそぬ草や杖のこ
蝶のこよねハ花のふりあふ
杖ふくや稻葉の螢をわく
至るははくく杖のほろろ
川流やむすく杖をよよ
ワカサのほろろ杖を
杖の蚊やいらくさ鳴虫もあ
うけくさくおほおの心杖の蚊
朝白のうけもよすくさ啼蚊
蠅もよ死ぬくさ杖の蚊

九阜
石維
みろ
掉歌
九二
蘭更
文芝
一
曉臺

秋 蚊

秋 螢

秋 蠅

初 鞋

蜂の唄夜をくらめありを失ひし
子は心も西もさくらしりけの繩
なほゆい人もほろよの始めを
く川鞋上里のふ日定まらず
物魅や美の小家もよひ日和
くく子のあはれ双らんゆきど
くらくらやゆいけのあはれ
かよゆもほろゆいものく
百もゆや名の上を履き
穀ゆけをふるるる子死す

春嶋
詠帰
竹馬
得雨
さくら堆
宇橋
一肖
太無
宗護
くら度

羶

鯽

鞆

落 鮎

福人よ並みく河麻子夜うま
ゆるきゆく夕のそよやがゆり
押水お女はよきしり
畑校ハ夜のゆきしり
管ゆけやうくらいつの月夜よき
夜行しりや落て人知る淵の鮎
花の鮎もあはれしり
村の鮎もあはれしり
鮎の脊やあはれしり
枯涼しり鮎もあはれしり

關更
萬三
万井
杜蓼
万壽友
白雄
保吉
春谷
双湖
太郎彦

放生會

流き藻の實をすくはば 破岩を
 包く推のくわはく 彼石をう取
 ね言し月夜鶴も 放生舎
 あらうて牛も鶴も 放生舎
 立はぬまのあらし 放生舎
 放しをんを放し 放生舎
 そきくよつて去り 放生舎
 三日月や舟も 舟も
 初月の趣向も 人喰ら
 鹿鹿も 鹿鹿も

龜丈
 南井
 白雄
 竹世
 一巢
 茶静
 一蕙
 嵐丈
 宇橋
 東哉

初月

三日月

二葉葉もあつし 初月夜
 三日月や小松の 野を
 三日月はいつは 初月夜
 夕の望の 夕の望の
 黄昏を透し 鳥を
 三角かたて 初月夜
 柳の葉も 初月夜
 三日月や 初月夜
 待宵や 初月夜

芝得
 草夫
 士朗
 素檠
 井行
 天光
 州夫
 保吉
 全彦
 輪之

待宵

名月

付香のらゆけくはゆきけ

与人

多川や月やまのつはのまき兔

五繩

名月や夜ハ人オまきぬ峰の葉を

燕村

名月やまよふまのたのしやう

野渡

名月や文こころさ中よき

烏章

名月ハあくる麻の顔ハ形

雪彦

名月やまよふ山ハ金ころは

三雄

今日月

古寺のまのまのまのまのまの月

白居易

のまのまのまのまのまのまの月

麥典

始々々々々々々々々々々々々々々々月

月化

出迎たるぬふくふくふくふく月

茶静

良夜雨

名月わらわをまよふまのまの月

士朗

名月の白ふくくくく雨ハ粒

可都里

月ハ清ておのまのまのまのまの月

乙二

月ハけゆるるのたのしやうの月

素龍

濡ハ出人のたのしやうの月ハる

護物

ささくすはふくまのまのまの月ハ蝕

北冥

蝕ハむやまのまのまのまのまの月

孤山

蝕ハむやまのまのまのまのまの月

護物

良夜蝕

十六夜

小の浪のうらさよ月夜よ

杜蘭

こめやくもいさよ月よ古んぐ

冥

つぎうしと採玉しりく花菱井何

紫明

十六夜や舟をこころる高尾寺に

南井

いさよひめもよ夜やまき芋の露

虎曉

月見

月よわや萍のやうのくぐり虫

存義

物うれそ馬の人ある月えうか

押象

またまこはさす名月えう取

繁里

七浦の風を袂く月人ご

芳竹

名りはかぬ夜と春富の月えう

一岫

月

月くらやみちるる

還古

月くうてんそくのついでと青月

草友

月かく出くや根根のうは志え

路堇

人ら曲らぬうほけり水月

文晁

まが月よ勢敵のうのまき也

少女
まきち

雨月

らゆら浪のうらさよの雨の月

押良

るゆらや月もりおけり名

士朗

雨くゆらそぬき月あちるる

成美

くくくくくくくくくくくく

西溪

月のるくくくくくくくくく

輪之

秋 日

石垣やうり汐のくる樓の宿
さつ汐や鷗のふつとやう物
つきの日はるふくれそ月夜よ
煙のりや川を較り砂まよ色
あふのりわきまおや移茄子
あふのりお中へさへ入るるあふ
娘の口をくくくあふれうく
苗まの畑ふふや夜の蛇
杖の夜や舟やうふふ白し
人るもあひいこりやありの娘

艸夫 一肖 木僂 輪之 五繩 茶静 梅溪 兌堂 卜鰻 木芽

秋 夜

長 夜

秋の夜ハ櫛も一葉をささふ灯り
つきのあふくくあふれうく
きき夜や子よまあうくく
門あくくもさくあくく夜をきき
あうさあさあさのくく青や附本突
そきあそ波のきくや 船の後
たうき夜をくく吹出す器や
床をさあす話やあまの灯り白
夜やまきくあふあふあふのりけうさす
夜まきくのりあすあふあふ山うか

草夫 不玉 表丁 不尽 ちうき ぐ香 蕪尺 杜蓼 巍道 可厚

肌寒

乃曰のうらむ心きや夜まの光
法掃のたるきのくまきく
新くくく肌まき夜の杜う
肌まやと先も夜う夜の婦
くくまわく先を枝のかうら
肌まや人も春のく硫黄か
厚風呂のくかうまう肌ま
新まの万年まきうは常う
新まやまうのく水ふ田
朝ま日新もてある糸の種

梅壽 梅塙 闌更 春鴻 真蓑 樂只 梅壽 武山 足女 掃石

朝寒

秋寒

新まや水のわうハく柳
婦まく竹まはくぬうはは
水まや山まきくふまのう
く新日をかぬく婦のまき
秋まの朝まうくく法家う
新まきくおまや葡萄すく新日
新まきくううて尺上る櫻う
法ゆまきくまうくはまあま汁
細海老のまきく新や新まき
くくまぬくまきくまうく杖のま

東岬 掉歌 万丸 石芝 茶静 茶静 清風 太即彦 茶静 吳山

秋雲

秋山

一筋の村々夜りき
 持控し静うちるや秋の雲
 友情の夢を久けや秋のそ
 秋の雲影の町を通り
 かきこふる海をわたりて秋の山
 の川がまを草とてあそ秋の山
 秋の山豆の眼さしおろり
 阿ふの山をゆるあふるの
 人あつりしやゆきも秋の山
 沈むる限はほくきと秋の山

豊前 萬里
 梅笑
 麻直
 宇橋
 騏道
 菊也
 乙二
 野松
 玉光
 猿丸

野分

ひやや大寒きまよひの
 ふきかしのちかきし
 夕のつらぬかぬわづきの水
 掃のふたりの扇も秋の
 市人の夜を宿るんせふら
 きて勢やがふあひまて雷鳴す
 秋の松根をききし
 中ふんせふせふぬ山
 稲妻のつらふしや
 持くるて寺のする秋の

江戸 鳥明
 櫻堂
 菊鳩
 一肖
 蕪村
 春鴻
 葛三
 乙二
 雨塘
 無説

秋夕

持くるて寺のする秋の

無説

橋衣

角力あめの投出すはくや秋のくも
毎日や秋ハ夕の 夕夕うくも
秋のくもよきほる 今や秋のくも
清中よ昔の家かゝる夜砧
糸うかすしきと乾くぬ衣うつ
あまの川 昔やほ草のむくは日土
口もく川や思のまほも 昔の家
きぬくくくは仕業人月月のまど
於一日も持てく老けかゝる

鷺雪 漫 茶静 菊塙 舟火 月居 南阜 鱗 良談 鳥醉

紫山子

鳴子
つる免一や推す小くふまゝ
尺はやふくは 月り紫山子
紫山子まて杖り似付子片山家
人あき紫山子もく月口
病ておけを病あのおちよ
まけくさの病あつ 病あつ
何ふあつ病あつ 病あつ
風吹くそらうま 水あつ子
鳴子く人あつや 芦のる
山吹のくを病くや川板のる

雪人 曾牛 旬光 くと女 武陵 棠熱 瘦菊 旬光 杏樟 白養

引板

下

大

漆水

稻

ささふも旗もくもくも引板の青
あーんんも峰よりふんん引板の青
山の積り遠き後には引板の青
引板の青より小里の人の青
おふーんんをほ水のうけや人の上
つるはほ水あふんん月の中
夕くまの門口つるはほ水
くさくさく日いろをほ水
稲の秋系も雀のあふんん
稲を穂より門の細流も

鷹崖
来石
菊塙
護物
白雄
乙二
并六
千影
得雨
北代

田川

于稻

稲の白ひてり川をくさる
養蜂の柳もくもく稲むし
老おのあふんん似くく稲の好
あ田川や水も体も身もあふ
外柳や芙蓉のさも門並
稲くさるもくもくや柳のうけ
稲くさるもくもく付も小舟もあ
くも持り川田もくもく稲根もあ
稲くさるもくもく持り山家もあ
山里や于稲もくもく月の色

晋峰
禾木
栄枝
關東
もろ彦
笛子
雨木
土朗
馬印
表丁

柿

臨買に出る片番のむくも
柄も〜 價も里の秋の南
本さりの柿の赤さよ尻の菴
筆柄の筆の付する子子も
も柿の葉をくくぬ墨の奇
柿くえく人里をくくひけ
作ちの秋の熱柿くくまり
空をくく〜 熱柿の思ひ
みく柿を志をくく徑の
買るは買るくく〜 柿の

雪橙 保吉 敬義 春葦 如毛 百丈 夢南 榎平 乙因 完来

熱柿

葛

葛紅葉

初紅葉

冬も〜 柿の葉
柿の葉も〜 柿の葉
くく〜 柿の葉
いつ〜 柿の葉
柿の葉も〜 柿の葉
初も〜 柿の葉
柿の葉も〜 柿の葉
古も〜 柿の葉
初も〜 柿の葉

茶辭 玉光 春雄 春鴻 尚維文 眞辰 袁丁 蕉雨 女 龜丈

芙蓉

秋の子のまめくしーさし初ら葉
立いて、芙蓉の洞しりくはく
をくくあゝ芙蓉のむの夕くぬ
夏う秋のそひはくはくやちる芙蓉
ひもやいしぬやや芙蓉さく
芙蓉さくー秋くくおとあそぬ
木犀のむく歌あきく白くくぬ
白くものくぬ木犀はくくくま化
もの羽くや木犀さくく秀のきき
なまあ畑の穂くく白くく穂くく

竹里
白雄
年六
そき
炭丈
應く
彌六
一愴
竹馬
太世

木犀

徳
節

刈
萱

芦の穂かかえくく月夜く
むく芦や秋くく面の穂くく
小酒屋の口くけく米ぬけくく
谷くくや穂くくをのむく穂くく雲
刈萱の面刈萱はくくその色く
刈萱の片畑芙蓉くくむ夕くく那
くくくやのくくくくくや山たぬら
刈萱の下這くくするのくくく
刈萱や山の口くくくくく曇
鶴くくやるくくくくくくく

松兄
扇紀
鹿太
岸根
曉臺
士朗
衰丁
杜蓼
炉扇
昔蘿

雞
頭

紫苑

彩霞にまても只存芳雀の形
夕のけまろやまの朝や葉の心
鶴のや 傍に流るるの中
あゝとぬきぬきと 畑や鶴の足
いゝとく風がくくも 昔のたより
内立つてはまゝに 志はふりか
花の葉に夕日と 花の世を来
朝の口は かくかきと世を来
酒舟の唇に 夕日と 世を来
席にまむせの 花よ くりり 形

雪度
具翠
采砂
柳扇
雪雄
笑九
秋菜
里丸
冷水
春鴻

秋野

牡丹系の牛より下は 花の心
世を来よよの 花の世を来
うらけけよ風の 袖をく 花の世を来
朝夜よよの 花の世を来
あまの世を来 夕日と 花の世を来
秋の世を来 夕日と 花の世を来
畑の世を来 夕日と 花の世を来
村の世を来 夕日と 花の世を来
宿とくふおの 花の世を来
夜とくふおの 花の世を来

乙因
竹舌
壺羊
月鴻
保吉
可都里
秀哉
茶静
椿堂
午殊

紫向麥花

蓼花

みそとほりておふ山家やそはり茶
大はゆの畑一拾や蕎麦の茶
そとの茶木の茶山もさき海
大蓼のなを伸く花赤
傘さしそやもさき蕎麦のむ
笠まねくおのつらや蕎麦の花
むらさきさきさきおのつら
三日月のけささき入や鳥瓦
ちりさきさきおのつら
おのつらさきさきおのつら

孫彦
伯世
東我
藤壽
右雄
孤山
廣陵
天民
利根吉

鳥瓦

木綿摘

佛も初穂さきさき
世の茶も苦さきさき
塊の角さきさき
花さきの茶もさきさき
茶もさきさきさき
糖もさきさきさき
山人や老のちりさき
けさき木ハ穉さき
おのつらさきさき
火のけさきさき

乙二
輕舟
一肖
其翠
大江丸
曉河
壽翁
啓山
一素
来鉅

薬堀

木賊刈

鹿

下

三十五

初雁

うきてゆくそのうらむきちのき
こころよすやあゆみの鹿のき
らけり事此戸の口らえて糸のき
婿のまや百のこころ糸のき
麻笛の切きこころ糸のき
麻笛や弓張月の入るうら
きり笛のきこころ糸のき
麻笛の吹くうらけり谷君うら
く川原や日しき新しきこころ
刈ゆ麻も実もふきはる糸のき

翠川
湛石
操丸
茶静
昔こ
竹見
寛里
雲舎
士朗
克一

鹿笛

雁

雁の来た古むし昔のこ地
来と心原餅前の電何ふ
初原ハ新なく秋のふくけき
汐先め家らるる雁のき
原家くや身ハ清まぬぬハ
雁のき旅の鳥えきあふけり
管ふや雨ほちくく雁のき
原なくや極の遠まて夜り
野うりやまきハこの風情なき
時ふくのきハくねるも夕鳥

茶静
草夫
了々
巴堂
真恒
太郎彦
成章
對良
月居
福采

野

新酒

新米や替おらすも朝の七弦
き免て詩の揚るるけおく酒
あかほくくきま出くくく酒
里並や坊ゆふ寺のき酒
染てらる枝くハ新ぬく年酒
壇飯の操くくくやと年酒
玉珂
恒丸
光浪

九月

東ふじ枝のゆづくも九月ど
兼月やまきく香ハく夜のを
ねるき山の九月く出より
其嵐
梅一
万和

重湯

後すきよ日のぬくくも九月ど
蓮るもあつてまきく九月くぬ
池の子のそけくも入よりふの菊
馬の屋もくぬぬ九月九月ど
乙二
みり美
茶辭

菊酒

後中もむくく漏りく菊の酒
きくの酒醒くくもふくく
掃の葉も子供ハはく色はりの終
乙二
蘭更
詠帰

後離

出を強ハ古くく美くはりのみ
かーはん終や美草のさくく
明石
瘦菊

十日菊

ふはくくく高く菊の十日く
李翠

拜市

酒場のぬるるや十日葉 玉蓬
 後ろ名もよれも初ぬ十日菊 得阿
 かあ〜十日〜あ〜ぬまきの菊 瘦菊
 糸市をきくははらめ五郎古ま みる
 糸ま〜月花年〜糸ゆ〜を 孤山
 ね鉢をゆひあめり〜市の外 さら雄
 山伏もま〜〜鉢を〜市の外 土外
 備〜世〜室の糸や〜の〜皇 古玄
 ま〜の月も備えつ十日之夜 士朗
 裏園の〜〜早〜十日之夜 士峯

二三夜

后月

月〜や〜〜やきむ十日之夜 太節
 家〜〜〜の葎の十日之夜 夢南
 〜家〜の月〜採扱や十日之夜 護物
 〜〜〜〜〜入〜や〜の〜月 葛三
 昔む〜〜〜入〜や〜の〜月 可都里
 居酒〜〜〜あ〜ぬ〜の月 菊正
 後の月地蔵も家の〜〜〜 茶静
 備錦の係〜〜〜の〜月 谿翁
 月〜〜〜の〜〜名〜〜を 樽良
 月の文沙ま〜〜〜子〜〜ぬ 太極

名残月

御遷宮

野宮別

秋 雨

月夜もあはれも月日余はるを
 とのけの旭をけりては遠く
 籠りのきけはるれくさよは遠く
 中のみまはれ掛くは遠く
 中のみまはれもれはるる
 火のりえくも夜もあはれ
 梓のの葉もあはれ
 山川の霧もあはれ
 くさよはるれはるる
 大汐の川もあはれ

土朗
 白雄
 冷水
 詠帰
 護物
 臥尺
 流芝
 雉扇
 瘦菊
 会鮭

露時雨

秋時雨

露 霜

秋の雨もあはれ
 露のりえくも夜もあはれ
 梓のの葉もあはれ
 山川の霧もあはれ
 くさよはるれはるる
 大汐の川もあはれ

關更
 得雨
 露竹
 子信
 玉光
 乙因
 士朗
 九朴
 護物
 騏道

秋霜

夜半や書送く〜秋のくは
あけあや拍杞の松栢の船制穴
はゆあやゆほよ〜秋の
横はははの雲を〜ハ蟹ノ菊
くま竹の骨を〜秋の雲
雁鴨〜の空合〜秋の雲
草輪の糸〜い〜あその雲
翔の雲の首〜あその雲
紅葉の似地所を〜
もみち〜名〜月産星

紅葉

茶静
来同
一月
春鴻
嵐丈
守三
不塞
三巴
うは

柿の葉

生鯉の大き〜もみち
あ葉〜日の照〜もみち
知ぬ人も〜もみち
雲〜連〜もみち
田〜もみち
笑し命〜もみち
秋の雲の〜もみち
小〜もみち
赤兔の〜もみち
少〜もみち

天馬
撫月
空彦
葛三
東我
虚白
逸英
子信
さ雄
葛三

草紅葉

菊

葉さくや味もて其くくすふ餘
 けやう灯さうちうぶ新く菊の香
 菊の馬や 菊切へ通ふ其の酒
 つのるも移るやけやみ露の菊
 是かこの菊よ新床の親父よ
 香籠る直ぐ人の花梅もくさ
 身むくけの杜まかこやうめ嫌
 溜桶の水うふまこさう梅もくさ
 世ら並上梅くまおく梅燥
 うく梅や木州ちくくすの浦の町

梅去
 梅掃尾
 亀鱗
 珠山
 明良
 廣陵
 聖万
 葛也
 文貫
 全長

梅燥

末枯

柚

末く水や畔まやう水 砂 俵
 末枯や向もさうさぬら新家
 うく梅や田見流もさうの味
 末のまや頬白ふく親父小酒店
 垣あしの柚も白ひくくうれゆる
 けくくえくくくくくくくく 柚のま
 月うけのまままむけを 抽り白ひ
 桶もちの義くけらや赤むく抽
 芝ものささいさぬぬ 抽の白ひ
 屏山の梅もくくくく 木更さ

茶静
 白光
 菜山
 一月
 万壽友
 菊也
 布席
 魚の皮
 みる炭
 鳥酢

木實

梨子

り中や移をむく板の 実
 本氏の字のむく月夜く
 味くいとふおそくお実く
 清くも庚申まけり山実ちる
 梨をむくやきらの月のききあふ
 ろおあふくは梨の形か
 夜すくのとちまきく新の栗
 栗をくく山移くあやむく
 起換てくくくや栗をくく
 後栗やうくくお付の心くく

普記
 蘿雲
 袁丁
 南井
 東陽
 可丸
 草圃
 弓雄
 菅六
 阿兮

栗

推

川 毎よあけさせつおく 栗
 少くくくくくけや推の宿
 推の實よふくあふくく
 新の背もくむけて川ぬ推の宿
 推のまやハロくくく山の上
 後持やまふ外持の形あう
 菜黄くくや小くもまき山実を積ふ
 くくの実を背へく山の口知り
 阿海に菜黄のまをむくあふ
 くくの実やあふ牛の積白さす

百嬰
 吐雲
 五繩
 茶靜
 ちりき
 白雄
 炒扇
 輪之
 雪彦

菜黄

通州實

杖伐まうのたまぬまあけむの空

晉峰

通草をいじりわつるまや山の町

凡二

菌

うらやみくはくおしや菌うらや

鳥明

そのいそぬ人初志る菌物

得雨

様方や菌をうは古折あ

孤山

協の菓よりけをむや菌物

鷺洲

小松をむらぬまきよきの時

亀遊

松露

松露るまや新まらぬる爺の家

右則

はまりのくく入るく 松露るま

守三

六代のくまやうの後の松露代

薬只

落水

二三尺程のゆきやおしり

月溪

ワラ門のえらうくま娘の落し水

蜂友

系堂の松世のうらや落し水

孤山

落し水夜々坊屋やうらやひら

黙翁

崩築

崩れくま築まくま 経木と

枚窓

くか、矢の流をてまらくつれ築

李音

山骨のやまをえしと崩れ築

宇橋

きりのまも松をいふとぬくつれ築

未木

細代打

罪にうら場をくつるまやわらわ

成美

系とまをくわくつる細代く

掉歌

行秋

向し路おちおの年貢をかゝりけり
けり秋の塵もをぬこころぬ
ふーのらゆゆの末葉も秋をけり
まき叶の下葉も秋も二三日
ゆく煙をたきけりも葉汁か
けり秋ゆるゆる細く家よりけり
馬下をさる土よりけり木の葉
さる木のいつくもゆく煙の葉
かりひきけりもぬの葉
煙のなしくゆく秋ハさるる

草夫 省吾 与人 仙骨 雪人 有月 几董 春鳩 壺半 咲菊

暮秋

九月盡

乙亥の尾より秋も 暮りも
繩も居ぬ時の家や九月も
東へ出た運のいえく九月も
山弓の袖ふきとる九月も
童換の日けりつれり九月も
はるまをふれハきり九月も

万里 みる 茶静 列山 菊塙 玉光

下

四十五

田喜英護物輯

○冬之部

初冬

くひあや二つ子よ若くもく

曉臺

初きや城下の町のわくま

みき彦

くろあやくくくくくおり

可盈

何なく冬の五くも葉木を

仙骨

くろあやくくくくく人通

太郎茂

十月

十月ハ兔く猪の日南

雞路

十月のくくくくくすね葉

百尔

神皇月

十月や芒の中は水のにおく
 十月や朝日のうは糸の角
 十とや緒と糸はくははれ猫
 死るまきれくさむし神皇月
 小まの心何やうくさ月
 日の何さ古狭くや神皇月
 中家くや本実くは家の神皇月
 峰の灯とねを依り神皇月
 灯もくくく麻上戸は神皇月
 草も黄子くぬ葉さの神皇月

素樸
 茶靜
 玉光
 重厚
 泉兆
 采年
 石垣
 東一
 みち長
 谿翁

神苗主

酒の息は余はくくくく神の苗主
 市神も苗主よあう朝のる
 神の苗主平家よまきぬ家物や
 一月の苗主掃く神心く
 油の苗主くくく神心く
 神心牛の神心くくく
 山里く早くくく神心く
 いつの苗主くくく神心く
 女房の苗主くくく神心く
 極子講くくく神心く

芳居
 護物
 蝶夢
 樂水
 一菓
 棧車
 夢南
 孤山
 石芝

神迎

極子講

玄指

并市まぐろけく鳥や蛭子備	春来
米二升ハ萩やちの香牒うか	蓼太
口上のこれうきさぬめさう歌	吐月
忘れ芽をふくや香牒の門の草	万壽友
さうさなを白さ笑出す香牒や	詠屏
梅もさく穠多う香牒の日初うか	宇橋
連テるぬ後くききき皆うき志	蜂友
連テるぬや南了の今計の中	こ二
なまきりや人のえはぬ五日月	午心
なまきり山吹もききき一ツ	三兔

連磨志

大仰講

連テるぬやさうさきききき碓の白	茶静
了り尾は蠲ハはぬさきき大砂備	喜齋
扱子さう辞やあさ外大砂備	宇橋
恥さうさききさきき大砂備	亀文
血細もけりさきき大砂備	玉蓮
祢且殿をけりさきき大砂備	みち彦
ハ玄備も髪おろさきき十夜	月化
扱さる白一十夜の講うら	蕉雨
るのさうけさうさきき十夜	露竺
きききさきき白つや十夜のおうき	ちんき

御余講

御取越

芭蕉忌

梨子くらの庭くちかや會武寺

酒樽の車引けり馬歩令儀

馬音講や傍よむるさき勢い

脊戸町や會武のむし一さくら

さくらうゝくちも椿も序くち越

松くちの目詰くちさよ馬歩くち

亡八郎の操れくちや馬歩くち越

馬歩向くちさきかちや宗二儀

隣まハ子の生れくち馬歩くち越

旅守くち志くちの持よまき成翁

雨塘

茶靜

一肖

護物

柳儿

泉北

宗来

成美

文貫

檉良

今ハ昔くちけくちめくち十二日

會武くちくちくちも来ぬ翁くち日

公孫くちくち菊のくちの女くち吟くち

くちのくちの馬歩くちさきやくち扇

形くちくちを休くち春の門くち牛のくち

風くちくち帆のくちくちあくちかまくち

眞似くちくちもくちくちくちくちくち

山鏡くちくちくちくちくちくち小春くち

松くちくちよくちくちくちくちくちくち

生海前くちくち浦くちくちくちくち小六月

無説

みち彦

挂裡

護物

湖山

百嬰

南井

梅溪

文晁

玉屑

小春

小六月

朝の日の一輪す——小六月 可友
 杵ののくくささく——小六月 北真
 中十日月もぬく——小六月 如松
 仲波の夜氣ささくや小六月 朱木
 冬の日北さすや蠶る菴の猫 樗堂
 田舎かくやあまの朝日の水ささく 足彦
 鱈すすむ里のあまのやあまの白氣 東岫
 芝草の朝けささくあまのささく 呂律
 冬夜の夜や菰ささくいせれけ法持 土朗
 鳥羽ののらさく面白ささく冬夜の夜 みるみる

冬夜

冬夜の夜や針ささくあまのささく 聖雄
 冬の中あやささくあまのささく 木海
 冬の中あやささくあまのささく 護物
 冬の中あやささくあまのささく 琴洲
 冬の中あやささくあまのささく 三喬
 冬の中あやささくあまのささく 李冬
 冬の中あやささくあまのささく 真風
 冬の中あやささくあまのささく 萬籟
 冬の中あやささくあまのささく 士朗
 冬の中あやささくあまのささく 澧水

冬月

初時雨

時雨

石蕨のぬきとこのまきわや印時
いとしの砂よこらるも初しと色
このまきとまきとつらや印時
まきとまきとつらや印時
まきとまきとつらや印時
まきとまきとつらや印時
まきとまきとつらや印時
まきとまきとつらや印時
まきとまきとつらや印時
まきとまきとつらや印時

茶辭
玉光
太節
遅春
葵之
楮来
蒲雪
鳥明
土朗
可都里

夜時雨

初霜のぬきとこのまきわや印時
いとしの砂よこらるも初しと色
このまきとまきとつらや印時
まきとまきとつらや印時
まきとまきとつらや印時
まきとまきとつらや印時
まきとまきとつらや印時
まきとまきとつらや印時
まきとまきとつらや印時
まきとまきとつらや印時

長急
士明
護物
乙二
芳居

松風時雨

初霜のぬきとこのまきわや印時
いとしの砂よこらるも初しと色
このまきとまきとつらや印時
まきとまきとつらや印時
まきとまきとつらや印時
まきとまきとつらや印時
まきとまきとつらや印時
まきとまきとつらや印時
まきとまきとつらや印時
まきとまきとつらや印時

豊岡
鉄船
扇暑
孤山
椿年

霜

霜の思のうらやまのね
 茶のけや雀はよくあつら
 から家の人目くらむ毎のち
 それもきこひのさかしのはき
 庭の人も育ちかゝる人のあ
 けけけのさのさのさのさのさ
 満月のちのさのさのさのさ
 柳のちのさのさのさのさ
 輪のちのさのさのさのさ
 をくちのさのさのさのさ

千丈
 斧杖
 壺羊
 黒水
 くえん
 音阿
 衛足
 悦二
 梅塙
 護物

霜夜

初雪

初雪の終る雪のち
 雪のちのさのさのさのさ
 雪のちのさのさのさのさ
 初雪の終る雪のち
 雪のちのさのさのさのさ
 雪のちのさのさのさのさ
 雪のちのさのさのさのさ
 雪のちのさのさのさのさ
 雪のちのさのさのさのさ
 雪のちのさのさのさのさ
 雪のちのさのさのさのさ
 雪のちのさのさのさのさ

養昌
 椿堂
 ノ且
 音峰
 茶靜
 吳光
 永枝
 旬光
 石雞
 雪三

木枯

木のちのさのさのさのさ

雪三

朕

清了夜や美もく来よのまきく
うつ着のきくそ所色間の町
順礼や仁五り前へ一孫をま
孫のまゝ穢ぢりくくあや穢
孫くく良ももく人けりくをま
孫のまやまもくくをまぬる
朕やさそ局をまもくく燭
つくくや霄う草薙の存り然了
既を了了く山くく淡ぬり水
つくくわ身くくくくく非ハ何

一頁
護物
保吉
夷
嵐吹
夢南
護物
春鴻
鷗里
某山

暉

爐 関

炒采や市くくくくはねの坊
炒をぬて左部くく坊くく
既ぬくくわ榮くくけくく
窓くく山尺子出くくく
炒采や屋もくくく梅り
口切や友くくまの葉の表くく
口切や水のけくくく
つくくはの口切くくく
口切や翠のぬくく一て赤
きぬくくくくく巨燧

重厚
蝶夢
五明
如翠
石芝
川上
不白
吐月
吾長
冷水
柳几

巨 燧

冬構

佛櫃のひしを兼てさしひび
後の寺の老く文ゆく巨焼ご
おろしや巨焼をのけし構を築
祝をさししや中りくろくまえ
縁木千ん日有ふくろく構
高積むく最のくろくろく構
多くまふくまふくろくろく
おろしよお葉よ葉のふゆ構
枯もあふぬ本葉や多くも
おろしハニくろくろく冬く

木木
燦帆
孤山
木父
昇灸
其丸
車両
菊塙
百池
伊勢
鴨河

冬籠

冬籠けきくろくろくろく
七くろくのきくぬ小籠や多
おろしよ日くろくろくろく
埋せやよよ以ろくろくも
くろくろくや多積ろくろく
埋せくろくろくろくろく
くろくろくや多積ろくろく
有ろくろくろくろくろく
投ろくろくろくろくろく
そまろくろくろくろくろく

其成
表丁
瘦菊
そま
木友
茶壽
太郎
備史
伊勢
暹舟
音吟

火桶

埋火

火鉢

一とちよとち桶をひき 家越り
おかしきと又ぬと桶の折あり
いろくくの袖口ゆるとと
何とくもくきと時と大と
白雪と舟と川 客のそと
山伏の鼻つと焙と田舎裏
かしのや田舎裏とまらと
夜吐の古のめととと
寂いけと家うちと出た
機ひとむと年と株の根と本と

玉珂
水直
子夏
碩布
茶薺
詠歸
松杜
芳居
護物
昌作

田舎裏

炭竈

積之れと川と年とのと
壁越るととととととと
小きやととととととと
根ととととととととと
炭竈ややく人とのと
寸ととととととととと
炭ととととととととと
すくとととととととと
おたつととととととと

椿海
氷佳
新賀
竹山
青蘿
みち彦
雪雄
観海
玉珂
椿堂

炭

湯波

来りし夜のせせたるは岸の日は
雨をきく夜のちやうくくく岸
夜のちやうくくく起すくのお
室のひらけりしや青金さるる
さびしきや燈塔の波り身はゆ
は丘もや湯波のふもく守り
持のたふも老や人ほく
苗まきよ春中小ぬりし羽衣
糸うきく羽衣も老きき
こころもあふんく見られし

帝衣

魚眼
半の度
石芝
杉長
志之成
草夫
護物
みろ
定雅
と
いふ

蒲團

帝衣をさへぬぬきく形初入りか
橋の宇よきかア人くくく
蒲をさへぬぬきく形初入りか
子多崎の坊人くくく
休もかき月りかふや蒲
すつをさへぬぬきく形初入りか
黄葉の勢致くる蒲もくか
さるをさへ夜のちやうくく
小室の雨もさる形初入りか
出ー入のきく形初入りか

玉珂
護物
みろ
百郷
東一
菊雄
護物
午心
さち雄
一月

衣

頭中

夢よをば一夜中一りの夢たつろ
 月居
 まーをば頭中かろのいづはを
 夫九
 孝経そのとをせききー頭中ど
 ノ且
 人あろはー頭中の形もあー
 夢夕南
 そのみそ子み笑ふー頭中ど
 瘦菊
 を舟の雀ハよえの頭中えろ
 狹山
 足儀をいそ寐るぬゆーとるえん
 燕村
 系ゆねととあれーとつや結の足儀
 九明
 ねあーくくけとをさす少あくか
 土朗
 抹上の替金の足儀や日中るーや
 夢南

足帛

納豆

古時月やをいづーはろとほしき
 夢多松
 納豆汁かハ嵐のいほろくね
 月拳
 納豆や五之の相比小まき
 葛三
 新りやいづとぬ身の納豆汁
 百善
 新登まの美さく身ハ納豆汁
 漢鶯
 山伏の袖のあろとよかろ汁
 女はも
 山茶花
 山茶花や一枝くねいつのほろ
 こち羨
 山茶花や縁ま口のさすろい先
 坦路
 山茶花や山家ハ風の吹ころろ
 李宙
 山人急の蓋ハとつき月夜ど
 一歩

山茶花

枇杷花

山花も色も日よ研ふささしよも好く
くさし祇丈もふくはくし印子のそね
かこもて木了すえりや枇杷の花
枇杷のむきくやぬらちぬらち
さき峰さけくあそむもろのむ
四月う寂くもえそ枇杷のむ
葉のふの十株も昔よ日南のま
もくも其けは持ぬ葉はうま
葉のふの跡もあささくもあそ
あふふや名をうけし山の町

一蕙
佛仙
いろ夜
嘆菊
蘭
園村
若翁
こら良
東湖
車両

茶花

帰花

葉のむは孫のくつ似く自刺
川よきて朽ちてこたへく
干稻のぬくうけくうぬ
井心くく喜のまやうく
残りき年のまきくや帰
くもむけくく形唾り
柳もく人ほすははそ
花のあよ日ハ入るくく
く色くくもくく安き柳
何そくく引くくく柳

護物
瓦全
耳谷
東峨
八朗
江川
崇非
布雪
鳥垣
三和

冬柳

枯尾花

ふき尾花をわさけさす 蓬

李冬

枯毛

枯毛を霜に出す 小なる木

みどり

又々 芭

聖なる人をさす 冬 芭

杜英

冬への日何れをこらひ 芭

棠枝

ものいそぬ人よりのなきをす

子明

くまきりしおりの毛もくぬ

禾木

そよの月よる月のうれ 蓬

双湖

枯萩

うれくや波うりむくそ萩のさ

暁臺

夜の萩萩くまきり 枯

長翠

萩の枯り袖くはくそ 枯

阜池

枯るまきりもつ萩のゆらぎ

禾木

枯菊

枯る菊や葉てはくそ 井戸

和夕

花かきりさす 菊の枯枝

其翠

蓬 柘

東一

耕雪

呂律

枯草

菊売も売てこのを〜小繩を
きき目の敷くハ足ぬよ菊うぬる
うれき〜やこれの子供もやう〜痰
ぬき〜でも病もつ萩の枯葉うな
枯草や何〜う〜ぬ〜ふ〜う〜ら
萩す〜い〜このやうに枯〜う〜ら
岸〜れ草うき鹿の尻〜ゆる
玄きよ〜う〜けあき〜う〜のふ草あ系
鼻の明も〜ぬぬ〜〜冬の小
漣も〜は〜く〜あ〜ぬ〜ぬ〜の〜き

女子侍
碓嶺
護物
騏道
みき
乙二
普記
守一
詠歸
南井

冬草

枯芦

冬〜さ〜や〜る〜よ〜あ〜ま〜る〜菴の畑
山うけや灯ハ〜は〜く〜う〜あ〜芦
の色芦ぬ〜う〜う〜の乾く草
枯芦を〜つ〜ぬ〜ま〜〜ま〜ぬ
〜れ芦や田よ〜あ〜る〜る〜文耕〜地
狐なく畑田の枯芦うぬ〜け〜子
枯蓮を〜ぬ〜〜〜や〜時〜折〜医〜者
〜れ蓮や鳥の〜ぬ〜ふ〜化〜の〜中
枯蓮の〜雨〜ん〜う〜〜や〜雪〜の〜坊
麦ま〜さ〜や〜百〜あ〜ら〜る〜。白〜く〜う〜足

旭居
徂牛
石充
三磨
呂律
東壽
みき
孤山
芳居
蕪村

麥蒔

菜四麥刈

志るや根すまきくホの汐をけ
 麦前や池の家鴨の久はまき
 かへ勢の代もくもや麦をまき
 そと刈はまきくもれと滝のくへ
 菜の麦刈や終てまきく赤人ほ
 笠をとりハ旗人あきく大根引
 船路のまきくぬ日を大根引
 暮きく大根まきくもよ門
 世移つるも子も終よりや大根曳
 大根引やくハ船自りよふくも

白雄
 蕉雨
 双湖
 今度
 年緒
 其堂
 杜葵
 禾木
 梅溪
 淡水

蕪

丁菜

おひしうう庭のくもりの瘦き
 おもきや草のくらの序まき
 たくうまうは日如やうぬり
 何つてく形の月夜う草をまき
 百るうちさはまきあれくもり
 みの申此うけ菜まきくもきよ
 其きあめ吹くけるや竹かき菜
 うき人のまきや丁菜まきくも
 かき菜けるのうまきハまきくも
 古うちやあき引出さくもす

白雄
 今度
 蒼虬
 志けり
 何丸
 白雄
 春鴻
 其芳
 太郎
 来拒

菖の香や春のつとめりしはるごとく
花けしや刈萱折くへとす
るふあす都のふくやほあけのけ
凍ちくよき水ぬ菖の白さく
十月の旅のいづる木葉ふる
きおきて流枕久すよめくど
ちる木葉想人えい阿まきぬい
志くれいハ木葉ふるくおと来さく
来く眺くきつつくー落るの中
筆り子と方く志はあや流葉く

落葉

月居
井丸
魚と波
亀丈
故友
掉歌
五繩
烏梁
田都喜
蓬仙

さかーきや美さ美くはる料理くさ
落葉はむ宿や婿さくーの苗
る志くー馬の屋まはく落葉く
流るるの水のふよきわちくもく
ちる木葉系まきくねくも先ふり子
ちくやもみら筆葉くもくおぬぬ
落葉くもいそぬお葉り雪くぬ
秋夕のあけみそくちくもくち
かき筆くも片敷くけや木木立
流徒の来て鹿くくぬ木木立

紅葉散

冬木立

凡二
松蘿
女
及もせ
みそ炭
歩箭
石雞
栳生
大い女
茶陵
旧友

善き見せくふも然しと冬末が
鹿のきくもあつえりく冬末を
あつえりく小中の翁はとらり
抱てゆく鶴かくや冬末を
瘦末翁のやきとれあす冬末が
あつえりくや片つと燃し古草鞋
水まのふけ日南ふまきし冬末が
融の小さくさく冬末が
夜ふ入るを山くあつ冬末が
人家くえりはくさむし枯末を

冬野
枯野

女は也
草芝
梅壽
衰丁
右雄
古玄
菊嵐
蕪村
雪雄
瘦菊

稲妻の夏とくおろす枯末が
かきつきの矢先とくおろす冬末が
くくくや秋那はむく古人家
くくくや馬の通りく冬末が
枯末がや入口のくく二日月
冬末の山戸よとくはく冬末が
おろす冬末の冬末む日むり冬末の山
冬末の山守む人け冬末が
冬末の山はく冬末が冬末の山

朽野
冬山

茶静
焚市
訓山
一巢
竹岐
嵐丈
梅閑
菩野
千枝女
さくら雄

冬 田

冬の田は人なくも田つら

白養

冬の子供も家より田より

芳行

板の字はも家より田より

春来

板の字はも家より田より

護物

冬 川

冬川原

五明

冬川原

まき枝

水 鳥

水鳥の浅き水は

みづ鳥

水鳥の浅き水は

し二

水鳥の浅き水は

居夕

水鳥の浅き水は

草均

鴨

鴨の足は

樂山

鴨の足は

未耜

鴨の足は

芙九

鴨の足は

乙二

鴨の足は

弄山

鴨の足は

川二

鴨の足は

車蓋

鴨の足は

萬籟

鴨の足は

くは七

鴨の足は

一肖

鴛鴦

鴛鴦の足は

一肖

雁鴨

秋の央の二羽つれはひつゝ

護物

厚鴨の啼ぶるや一上宵のそと

乙二

厚くもの位はあまきりあつたむ

太郎彦

一鴨の畔持合ふくさるる日丸

雪彦

千鳥

糸耳くさるるくさるる志あぬあそ

みち彦

鈴のたてはひつゝあつたむ

伯光

川千鳥のそとをくさるるくさるる

介立

くさるるぬ夜を標ちくさるる

南鶴

孰ちくさるるくさるる夕ふさるる

仙舟

鳥

春や竹の葉はくさるる啼の於

蝶夢

あつたむや仇は十夜を啼あうす

春鴻

鳥もかゝハ枯くさるるの体あうす

みち彦

罪のあまきりくさるるのそとあ

竹児

あつたむくさるるくさるるやあつたむ

蕉雨

木兔

木兔引る身も大町の月日だ

乙二

みつたの字飲て居る木兔うあ

宇摘

木兔やえゆく里り帯くさるる

茶靜

くさるるや念あまきり夜のそと

木木

くさるる苦きくさるるくさるる

葛三

足うける木もあつたむくさるる

竹児

寒苦鳥

大徳

鷓鴣

山柳の木はすそめぬまゝ苦も
中のとよね木蔭にわびるまゝ苦も
湖の何れかの磯ありみそけしお
一羽も書ふはつとけしをけしお
岸の春阿なと鳥を鷓鴣
おくれゆくまやしくれぬ鷓鴣
みそきくお出の木の蔭枯木なり
はかすもあしむう山のまをすく免
りまぬぬハ梅よ雀もまゝあまを
かろ見えし一もけしおくおまゝあま

菊後
芳居
乙二
葵亭
北元
朗光
一雨
亀夫
我山
みち長

冬雀

冬雁

冬鳥

冬蠅

ふれよもなるしとけしをまゝの厚
舞うておろすまゝたろの厚
厚くおろやまゝのぬくも船安所
年にもおまゝをまゝくも厚の厚
軟くもけしをまゝくもやまの厚
おれよおまゝをまゝくも田の鳥
田ハ鷓鴣よまゝをまゝくも鷓鴣
まゝのまゝ鷓鴣も只まゝくもまゝ
新風やまゝのまゝの鷓鴣もまゝ
まゝのまゝの香ハまゝをまゝくもまゝの蠅

輪之
南井
竹馬
久瓶
みち長
三津人
鱸江
蘭
白度
白旗

冬のまゝ昼かゝ附の葉木をく
 宿場や夕日垂くく冬の間
 世の中をくくくくくくくく
 冬の間人まをくくくくく
 一粒のくくくくくくく
 一のものも二の積名のれくく
 蘇切をくくくくくくく
 鯨さけて竹の中をくくく
 新市や河豚めをくくく
 ふく一ツまてんせくくく

玉到
 素地
 文貫
 巴丘
 表丁
 詠掃
 杖技
 白雄
 吐月
 乙二

河豚

鯨

鯨汁
 刺息を足はくか夫や鯨くく
 君の代の人垂ひくくく
 鯨くくくくくくく
 大津餘の鬼も取くく
 ぬく有く流はくくく
 杜父魚や鮎周あくく
 くくくくくくく
 杜父魚ハ夕月をくく
 生海龍くくくくく

表丁
 三彦
 篤夫
 阜二
 東一
 旧友
 孤山
 一月
 護物
 春鴻

鯨汁

杜父魚

生海龍

杜 鰯

まゝあへーかゝるまゝのさ海前
笑ふ門へ投ぐんこりかする
ゆゑ〜おののち移るぬ生海前
浮あまこ月の本舞ふ對〜り
ち〜あやむきま〜る雪の杜鰯
石花抄入浪もむまのり色る
うさむ移るもふもあぬ二日月
世〜ふのさ〜も波るの鰯をい
は〜杜鰯や芦も〜る家も書もち
ら〜らもる鼻の先〜朝ち〜中

友国 卓他 扇和 麻交 保吉 士朗 掉歌 栄枝 兩交

柴 漬

けり〜るあ〜る〜る〜る
い〜ま〜るを焚く〜山と〜あ〜る
射ぬ弓の〜も〜砂り細代守
ら〜ら〜る〜も〜あ〜る〜ふ〜る
ふ〜漬の志〜川〜を〜ぬ〜く小舟
霖り魚を〜め〜く〜と〜け〜ら〜る
〜〜〜け〜る柴漬よ月〜よ〜る
西〜り〜も〜置の〜つ〜〜る
夜鳥川や大の〜る〜む〜る
い〜ら〜る〜る〜大の〜る〜る

芳竹 東一 魯大 孤山 乙二 玉珂 玉雄 護物 燕村 曾逸

夜鳥曳

くちねしめ冬至のくちねも黄くちね
一宵

霜月

霜月の霜相うそねよふ家色ふ
玉珂

霜月や首仰せりし山り彼
蘿月

霜月ハ南丁の実の白初ふ
左学

霜月やねむくしよの初る山家
夢南

冬至

冬至の初るはくちねも黄くちね
今度

刺 息首初も一ふき冬至の
南井

系丁と初る一冬至の門田
茶静

口くちねふ二の降へる冬至の
行馬

髪置

くちねしめ冬至のくちねも黄くちね
狐山

かき置やりの過段もそのまじり
丸簾

神樂

米のまのまじり甚うけ神楽の序
万祀

木ののこころしめくちね 神楽の如
菊程

木兔の息り灯のさす神楽の如
岐山

みぎまじりくちねの初るくちね
美山

神楽海で雪の山月をやはた也
州大

子祭

くちねしめ冬至のくちねも黄くちね
みる山

子祭の初るはくちねも黄くちね
律山

吹草祭

子之館の法も換よ子於人
もも〜〜以草もあもるるの〜
あもる以草密柑とて下あり〜
以草場もあもる夜更ぬ力自立の灯
あもる燈や〜の法〜の起
法中燈の長〜の白や昔金足幣
ま〜〜の君も被治をち〜や燈を
空也志るも持〜あり〜泊〜
空也志るも〜方〜の〜
空也志るも〜あり〜祿〜麻の乃

護物
輪之
孤山
護物
一草
禾木
雨鈴
首三
空阿
碩二

鉢敲

柳の葉も書もあもる人鉢を〜
とらも〜た折る本より〜を〜け
本枯の身ハ修中〜上〜ち〜さ
ぬ〜ん〜奴も土もや津〜
西〜り〜切〜の〜の〜を〜ち〜法
え〜の〜夜〜ヤ〜の〜れ〜を〜色〜を〜を〜
ま〜を〜以〜指〜か〜〜〜を〜踏〜さ〜ゆ〜
あ〜く〜と〜移〜る〜夜〜を〜持〜て〜ま〜を〜志〜佛
木兔の身もあもる〜を〜志〜佛
ぬ〜る〜嵩〜も〜あ〜る〜い〜さ〜〜〜し〜ま〜を〜志〜佛

真栖
松為
伊勢
虚舟
鵬翅
護物
鉞船
万壽友
雉扇
曲阿
石芝

寒念佛

報恩講

つまろお付くそくゆりしゆお月	乙二
馬さしつ決そんさよ市	乙二
うくと魚呼こゆく	蓬山
おまおんて布衣流下る	魚口
ろくこの業少もきこや	長島
影そきの幕ふ夜半のゆ	蕪村
白くそくとゆりきさの蒸の味	孤山
昆布のまじり白くそ	頑島
殺やゆを熱はく	枕衣
雪ふゆややく	茶未

雙居

雪

雪のりやんるなまのあつ戸口	巴堂
くはりを雪こしてそ山の家	夜江
片里やふ雪ふま	節志
雪ふハくふ大りのほ架う形	みち彦
ゆふゆゆ後めり出ても	月居
ゆふゆや月よりるをち事うは	夢南
そゆふかく梅ふし	五頁
ゆふゆや小夏のまゆ	東一
葉魚こ中人こゆ	川二
雪うんて雪うんて	屋烏

雪國

雪用煮

雪見

雪吹

舟より馬より雪吹く
梅子かきつて雪吹く
梅子かきつて雪吹く
江の雪や梅の雪や夜の雪
まじりさや二夜目の雪のあけ
梅の雪や梅の雪や夜の雪
聖の雪や梅の雪や夜の雪
雪の雪や梅の雪や夜の雪
雪の雪や梅の雪や夜の雪
雪の雪や梅の雪や夜の雪

平島
家鷄
かき
宇洋
五芳
木木
李華
茂木
蕪村
保吉

志卷

雪の雪や梅の雪や夜の雪
みの雪の梅の雪や夜の雪
恒の井の雪や梅の雪や夜の雪
雪の雪や梅の雪や夜の雪
梅の雪や梅の雪や夜の雪
雪の雪や梅の雪や夜の雪
消まの雪や梅の雪や夜の雪
雪の雪や梅の雪や夜の雪
雪の雪や梅の雪や夜の雪
雪の雪や梅の雪や夜の雪
雪の雪や梅の雪や夜の雪

巽我
起石
利根古
玉光
全友
炉扇
乙二
嵐兆
右月
梅壽

霰

雲

山松のやぐらけりらけり
多し〜〜年の屋敷〜〜
鮭の照れ籠りぬ〜〜
み〜〜や草摺の雲ハ赤〜
芦の葉の青も雲の夜のま
宿さあやみ〜〜向〜〜の面
拾〜〜や〜〜
想〜〜の〜〜
お〜〜の〜〜
さ〜〜の〜〜

蕉雨
守三
雪三
鶴丸
草夫
表丁
茶静
兼記
淡翁

氷

氷柱

氷〜〜の〜〜
山里の月さ〜〜
多〜〜の〜〜
氷柱す〜〜
はら〜〜の〜〜
旅人の足跡〜〜
海の日や花の中〜〜
い〜〜の〜〜
氷〜〜の〜〜
雪車〜〜

壺山
芳之
多
萬丈
孤山
みら彦
玉珂
禾木
一月
棠北

雪車

栂

後ひのやうな栂はししー栂の教
雪のまのさきまのちうくくくくく
山所やちをちあふあふき栂の体
雪車川や窓子も知れり遠し
城くく栂のくくくくく
ふさくは旅人栂をく栂あうく
酒くくき里よ入りのかーまぶ
月をくくくくくくくくく栂をく
教のくくくくくくくくく栂
くくくくくくくくくくくくく栂

竹吾 東鶴 晋峰 聽雨 白雄 保吉 春鴻 石芝 環阿 吳莠

冬梅

寒梅

冬椿

山家白ハち栂あうのあーあう栂
栂あも負く土化ふ色あうの栂
きく梅やさーい出さーいさ立の家
きく梅の二あまてさく厚あふ
きく栂ハくくくくくくくくく
菜くくくくハ栂あうあーあう栂
人くあうくくくくくくくくく栂
小一月さくくくくくくくくく栂
ま今くく一ツくくくくく栂
うくくくハちくくくくくくく栂

草夫 玉光 古泉 篤志 一月 乙二 雪雄 對山 魚文 護物

力草

そのまゝハムヨクおるやちうく草
草さしくまもつたるま力くき

石雞
菊後

師走

日あつとるの海のみ歩まきか
まゝのや歩まきのまのまはし
百羽の舞おま入ー歩まきか
吾並少や人の歩まきを海のつる
けちよふおのてまも師まきか
秋葉のがくし碎まつ川もまき
物まきて羽織ま舞ま川まき

表丁
孤山
茶靜
菁丸
松園
石ま
碩急

川

臘八

貫之エト戸の海法を川まき

護物

備ハやま入人ほまおく之は時

大標

備ハまおくそ旅手は男々形

茶靜

備ハや峯う新日ウ 篠まき

植立

丹くまぬま備ハソハれ小竹城

一宵

備ハまおくそ旅手は男々形

曉臺

備ハまおくそ旅手は男々形

柳凡

備ハまおくそ旅手は男々形

諸元尼

備ハまおくそ旅手は男々形

夢南

備ハまおくそ旅手は男々形

護物

佛名

乾 魁

五明
 春鴻
 車蓋
 士朗
 乙老
 柳凡
 士朗
 俚言
 素藥

羊内立春

追 儼

於 賣

節季候

五明
 春鴻
 車蓋
 士朗
 乙老
 柳凡
 士朗
 俚言
 素藥

年用意

大竈のえんり年木の栗ヶね
年本はむらうりや香りの杜
鶯の鶯うささね年本
子家の洗濯うぬやうり用
鄙うりや掃一掃り年用意
人うりそあうり家のうり用意
年忘度中の務をうりうり
うりうり似うりうりや年忘
年うりれ行ハねうりうりけ
二夜うりハ子うりうりうり年忘

行兎
和調
年守
冬彦
振管
宇橋
樽良
昔灌
太拍
月守

年忘

古曆

春待

来春

古曆十日の菊うりうりうり
曆古ー栄櫻の尻の巻はめて
うりうりねの候うりうり古曆
年うりうりねの候うりうり古曆
春まじりやうりうりうりうり
来を待眼子乙まの古菓
一うりうりうりうりうりうり
来まじりや茶のうりうりうり
四月をうりうりうりうり
来のくるうりうりうりうり

夢南
可曆
栄枝
柳美
みうり
葉路
紫金
石海
玉光
存義

行年

戸口さへ何となくおまんの
 来るまの候ふをすう丘の草
 北く年や夜もせむおむねの
 け年のおよぼふ——く久松
 ゆくまや海田よまゐる年の
 物もつてけ年のん竹貝朴お
 け年のさうねふゆき葦家
 費し——日をうそゆもあえう
 け——とまふもえうか
 番物よる又もとうをいやむ
 馬口
 冷水
 喘國
 杉廬
 古岳
 五雲
 鹿阿
 葛三
 夢南
 護物

岡見

年籠

歳暮

大年

何の何の何の何の何の何の
 眠りおそ梅をんおしう年か
 くと——昔んをら——後か——
 小窓く——く——ゆや年の
 くまてけ年や餘のけ——け
 け——の昔も兔も耳も——け
 養えく——里もあつ——年の
 掃活のまよもておさけり昔の
 大——や人の出てくるま——
 大年や海連よりくはく花の
 如斯
 梵狂
 竹児
 みる彦
 卓池
 其白
 可盈
 茶静
 白居
 古玄

大晦日

年
夜

除
夜

小夜歌の相子さくらや大晦日
 むつしや年のほろろの梅老の盤
 かいふの藤うまうそ年の宵
 年の夜や紫を付るる ね 養
 くのあやちの旅人出て歩り
 年の夜もかきけ 白子うた良冠夫
 ゆくゆくもあそびえり 除夜の梅
 ねをよや除夜の松を東きん
 来ぬる野良をきく 除夜の定りる
 又守りしも世よあしり 除夜の梅

詠
一
我
夕
乙
老
鷗
里
瘦
菊
博
良
保
吉
筑
山
護
物

春

追加

暁の柳 その日をまぐさ
 うらけややおとりのん勢ふ
 花よ紫のうけうさ糸く 福寿草
 土地の呼吸若川 梅の花
 不盡う まて魚をうけて 林
 柳の目やおねいりぬ人の友
 花のうさうさのふの柳もいぬ
 春の花のやハハハハハハハハ
 花のうさうさのふの柳もいぬ

村
濃
亀
女
栖
霞
雨
休
鮭
井
佳
夕
六
音
新
賀
雨
休

夏

秋

五月あるや葉の味もくもりのよふ
鹿の子のまもりけりーらほ
ふのそまき五合の室やおつ水
若は水てこまのよまふものほし
夕まやふもつしもくまふの用
酒早の熟しむらさきのくさ
世の中ハ味くくしてよまきまの味
まの森やまのふの森のま
つらねぬれぬれいもやまの
鈴鳥やまを今午のまもり

楓所
其色
杜成
六音
山花
一賀
得我
再可
百里
佳續

冬

虫の雨孫雪の思ひ
蓮の宮北のまもり
破刺家のまもり
秋のまのまのまの
泥亀をまもり
麻 笛や人のまもり
ふの中のまもり
舟のまもり
しらゆのまもり
白あまのまもり

萬山
雨休
村濃
六音
萬山
百里
得我
雨休
ろ十
六音

江戸本石町十軒店萬笈堂英平吉藏校俳書目錄

俳諧發句五百題 春秋庵白雄房撰

小本二冊

俳諧發句新五百題 田喜庵獲物撰

中本二冊

俳諧發句新五百題 同撰

全二冊

俳諧發句名所千題集 同撰

全三冊

俳諧發句今人東風流 洞海舍涼谷撰
一具菴一具校

全二冊

俳諧發句續故人五百題 一具菴一具撰

小本二冊

俳諧發句類聚 八朵園寥松撰

中本二冊

俳諧新發句類聚 同撰

全二冊

俳諧發句類題 同撰

全二冊

俳諧古今撰 蕪菴蟹守撰

嵐雪句集 一称玄峯集

其角句集 坎齋久藏撰

蓼太句集

吏登句集

巢北句集

意の栞 葎雪菴北元著

俳諧手挑燈 一名俳諧初心手引草

俳諧四季名寄 李夢大哉のちりきり
且名寄と附く紙あり

俳諧袖鏡

中本二冊

全二冊

小本二冊

全六冊

全一冊

全一冊

小本二冊

中本二冊

寸珍薄用本

寸珍二冊

季寄度覽

新編俳諧文集 多村もろ吉の人の
久とありき

葛里句集 連句の集

獲物七部集

袖定規

表 俳諧定規変作之図

七部集そのか古哲俳諧の變化なる所と定規を引合
圖しらく平風能楽の自在を一目に見安うしむ

一枚撮

全二冊

全一冊

小本二冊

両面一枚摺

假名遣物目錄

春登上人撰 万葉集を五十音ニ合五十音の升りて正俗と合

山本明清大人撰 且何事何下のおおを印せ 懐中 折本一冊

高井八徳大人撰 尚古假字格 紀記カ系以下古辭の 全 一冊

今丁古假字格 古く解し今くおとを合 全 一冊

長野美波浦大人撰 對照假字格 同上 全 一冊

新校定家公の遺 音便假字格 全 一冊

貫之真蹟堤中納言家集



中道軒
信好

中道軒

